

Digital Network Station

COMPANY PROFILE



PR finearts printing company

印刷にまつわる昔と今

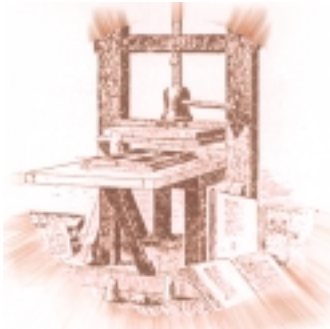
～ 6000年の文化～

<紀元前>

- 4000ごろ (バビロニア) 押圧印刷 (瓦書) を始まる。
- 3000ごろ (エジプト) 水車パピルスの茎を加工して書写の材料にする
- 2000ごろ (エジプト) 現存する世界最古のバビルス文書「パピルス・プリス」完成
- 1200ごろ (エフェソニア) アルファベット作成
- 220 (西亜アジア) パーチメント (羊皮紙) ができる

<紀元>

- 105ごろ (中国) 蔡倫が樹皮、麻くず、古魚網などの繊維から紙をつくる
- 285 日本に漢字と墨の製法と紙が伝わる
- 810 中国の製紙法伝わる
- 7世紀～8世紀初 (中国) 木版印刷始まる
- 770 「百万経院蔵尼」印刷
- 868 (中国) 「金剛般若波羅密經」印刷、現存最古の印刷書籍
- 960～1279 (中国) 宋時代、木版印刷と出版が盛んになる
- 1041～1049 (中国) 畢昇、陶製活字をつくる
一般には使用されず
- 1195 「成理論述証記」(魯日版)の版木つくられる
- 1314 (中国) 注述が「農書」22巻を木活字により刊行、巻末に木活字の製法、文意、印刷工程について記す
- 1403 (朝鮮) 太宗宣官の銅活字鋳造所設立
- 1430 (ドイツ) 初めての活版印刷
- 1440ごろ (オランダ) コスター、木活字を試す
- 1445ごろ (ドイツ) グーテンベルグが活版印刷術を発明

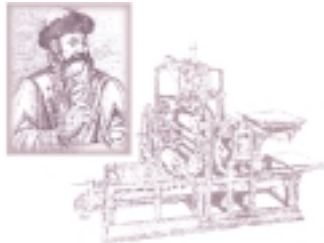


グーテンベルグが製作した印刷機

- 1455～56 (ドイツ) 教皇の命によりグーテンベルグが「免状」を初めて印刷
- 1457 (ドイツ) 初の3色刷り
- 1460ごろ (イタリア) フィニグラが彫刻四版印刷の技法を考案
- 15世紀初 (イタリア) マヌエウス、約20年間に120点の本を刊行
- 1513 (ドイツ) グラフがケッティング (銅版凹版) を工夫
- 1536 (イタリア) 最初の活版刷り新聞「ガゼッタ」ヴェネツィアで発刊

- 1590 (日本) リバーニャーニが西洋活字と印刷機を携えて来日
- 1607 (日本) 徳川家康の命で林道春が「大藏一覽集」11巻刊行、銅活字による版河版
- 1608 角倉海庵、本町邸に光悦ら「伊勢物語」などを木活字で刊行、経緯本、光悦の名
- 1642 (ドイツ) ジーゲンがオフセット凹版法を発明
- 1665 (イタリア) ボルタ、携帯用暗箱を発明、写真の始まり
- 1765 浮世絵師鈴木春信、版木師と協力し多色版画を完成「錦絵」のおこり
- 1768ごろ(フランス)ジャン・バプティストがアクアチント凹版法を発明
- 1783 (日本) 河内川原、オランダ人から興業による彫刻銅版法を習い銅版印刷
- 1798 (ドイツ) セネフェルダが石版印刷術を発明 (イギリス) スタンホープ伯爵が鉛鋳鉛印刷機制作、印刷能力毎時250～300枚印刷可能へ
- 1802 (イギリス) ヲエッジワッドが、感光紙で増感剤による写真うつす方法を発明
- 1808 (アメリカ) パーキンスが銅凹版法を完成 (ドイツ) 初の石版多色印刷
- 1812 (ドイツ) ケーツェとバロアが蒸気動力による円圧式印刷機を完成、印刷の力毎時1100枚可能へ
- 1813 (フランス) ニエプスと石版石にアスファルトを塗り、写真版をつくる
- 1824 (フランス) ニエプスとダゲール、写真凸版発見
- 1837 (フランス) ダゲールがダグレオタイプ発明、写真術の祖
- 1837～1845 英・独・仏3国でこの時代、手造り工業の多くが機械産き製紙業に転換
- 1839 (イギリス) ボルトン、重くロム酸アルカリ液の感光性を発見
- 1846 (アメリカ) 赤一、輪転印刷機制作・印刷能力毎時8000枚可能へ
- 1848 長崎通詞本島清造、オランダから活字と活字印刷機購入
- 1852 (イギリス) タルボット、重クロム酸ゼラチンで写真凹版制作
- 1853 (フランス) ニエプス(上記ニエプスの甥) カラー写真考案
- 1854 (フランス) 赤アトハバロがコロタイプとカーボン印刷法を発明
- 1857 (アメリカ) カラーライナー実用化
- 1859 (フランス) オウワロム、3色写真法の原理を確立
- 1870 (日本) 本島清造、長崎新街に活版製造所創設、日本初の民間活版業・最初の洋式活版刷り日刊紙「横浜新聞」創刊
- 1875 (日本) イタリア人キヨソネ来日、日本印刷界に貢献
- 1879 (チェコ) リリツチムがグラビア印刷法を考案、1909製作
- 1882 (ドイツ) マイゼンバウハ、2枚合わせの交差線スクリーン完成
- 1885 (アメリカ) アイブスが銅写真と3色版制作 (アメリカ) マーゲンタイター、自動鉛字組機「ライノタイプ」発明
- 1886 (アメリカ) レビー兄弟、網目スクリーンの試作に成功
- 1887 (アメリカ) ランストン、ノタイプ鉛字組機を考案、89年に試作機実演
- 1891 (日本) 東京朝日新聞が日本初の輪転印刷を開始
- 1893 (チェコ) リリツチムが輪転式グラビアを完成 (ドイツ) ストックラーが鉛筆鉛筆版印刷法を開発
- 1894 (アメリカ) アルム早稲田法を発見
- 1896 (日本) 川一真、わが国初の3色版印刷機製作
- 1920 (アメリカ) ルーベールがオフセット印刷機試作
- 1907 (イギリス) ベーンが原稿から直接金属版面に撮影・製版する方法を考案
- 1920 (日本) 坂本武夫、和文タイプライナーを発明
- 1922 (ドイツ) ドライゼンバウハ、銅凸版製版法オートマチックを完成、ツェン・メルクによる写真平版製版法を考案
- 1924 (イギリス) プライスが乾式平版法を考案 (スイス) 伊ボ、多色グラビア製版法考案 (日本) 石井茂吉、森沢信夫、写真複写機を発明

- 1929 写真複写機実用化
- 1933 (日本) 菊木一雄、曲面印刷機発明
- 1935 (アメリカ) 斎藤アキラがフィルム発明 (日本) 小学校教科書、初の多色印刷
- 1953 (日本) アニコン(フレキシ)印刷機開発、プラスチックへの印刷が可能に
- 1958 (日本) 日本初のシャドマック試作
- 1959 (日本) ファジシミリによる新聞の電送開始
- 1960 (日本) 印刷製版にコンピュータ導入
- 1965 印刷校正記号がIS化される
- 1967 写版による新聞が発売される
- 1969 (日本) コンピュータによる全自動写真複写システム完成
- 1977 カラーコントロール可能なスキャナが開発
- 1979 (イスラエル) サイテックス社がコンピュータによる製版処理装置、レスポンスシステム発表
- 1984 (アメリカ) アップル社からMacintoshが登場し、アメリカでは爆発的なDTPブームを起す (アメリカ) アドビシステムズ社が、PostScript (ポストスクリプト) 言語を開発する
- 1985 ライノタイプがポストスクリプトイメージセッターを発表コンピュータで作成したものが、印刷紙・フィルム出力が可能になる
- 1989 (日本) イメージセッター日本語版が発売
- 1992 (日本) 印刷業界にアップル社のMacintosh導入者が進む
印刷業界で電子化・デジタル化が進む
- 1995 インターネットブームが始まる
- 1996 (日本) DTPブームが始まる
電話線デジタル化(ISDN)が進む
- 1997 CD-ROM化が進む
- 1998 オンデマンド(パソコンで作成した物が、中間行程を省略し、直接印刷されて出てくる印刷機)により、少数部数への印刷が低コストで作成できるようになる。
- 2001<想像>マルチメディアが進み、1日に1000以上の新書時代の到来、コンピュータが中心になり、世界での社会や生活等を管理・運営する。
印刷物は、紙などを使わずにCD-ROMや電気通信、光通信(光ファイバー)など電子版(デジタル)な物に変わり、発刊されるであろう。



デジタルデータ入稿の仕方



お客様が、ワープロ、パソコン等で入力された文章(文字のみ)などをフロッピーディスク(FD)などに保存していただき、印刷会社に持ち込んでいただければ、文字データはそのまま使用できます。また、そうすることにより校正する手間が少なくなり、時間の短縮にもつながります。

【フロッピーディスク入稿の場合】

保存形式又はファイル形式を「テキスト形式(シンプルテキスト)」にて保存してください。

必ず拡張子は忘れずに、ファイル名の後に「.TXT」拡張子をつけてください。ファイル名は、全角4文字(半角8文字/英数)でお願いします。

例 全角4文字の場合:あいしエ TXT / 半角8文字の場合:ABCD1234.TXT

【DTPデータ入稿の場合】

文字データは変換できますが、外字や記号(・横・km)などは変換できません。

表やグラフなどは変換できません。表の中の文字データやグラフの数値データは

変換できませんので、保存して入稿してください。

必ずフロッピーとプリンターで印刷(打ち出し)したものを一緒にお願いします。

(詳しくは、当社までご相談ください。)

光の3原色

R+G+B=W(加色混合)



色の3原色

C+M+Y=BL(減色混合)



色のイメージには、「楽しい」「寂しい」というように、人のごく自然な情緒を刺激し、誘発するものと、「エスニック」や「和風」のように、具体的な自然環境、伝統、道具などと連想するものがあります。

色のイメージはそれぞれ個人的に違い、音楽や味覚と同じように、感覚の世界に白黒はつけられないでしょう。しかし、逆に感覚の世界であるならば「悪く」「賛う」といったような上達が可能で、この積み重ねが色感覚の領域を広げてくれます。

色には飽きるという問題があり、ファッションでよく経験するように、せっかく気に入った配色でも繰り返して着ればやがて飽きてしまふ。そして、次にまた新しいものが欲しくなる。しかし一方では、この「迷い」から「飽き」に至る間に確実にその感覚を自分のものにすることができるといふ。

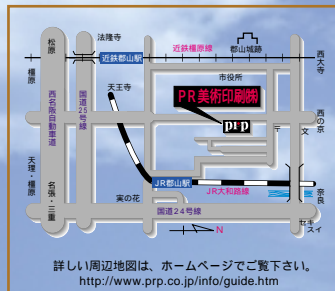


詳しくは、インターネットホームページでご覧下さい。
よくわかる印刷辞典:<http://www.prp.co.jp/jiten/>

柔軟な発想で
マルチメディアの
明日を目指す



prpNetのホームページです。
一度ご覧ください。
URL:<http://www.prp.co.jp/>



詳しい周辺地図は、ホームページでご覧下さい。
<http://www.prp.co.jp/info/guide.htm>

【会社概要】 <http://www.prp.co.jp/info/>

社名 P R 美術印刷株式会社(ピーアールビジュアルサービス)
所在地 奈良県大和郡市京町44 〒639-1152
TEL. 0743-52-5071 FAX. 0743-53-0077

創業 昭和43年4月
創立 昭和59年7月
資本金 1,000万円

代表者 代表取締役社長 服部 昭至

事業内容 商業印刷 カタログ・パンフレット・会社案内
ポスター・社内報・機関紙・各種新聞・記念誌・PR誌・冊子・句集・名簿・封筒・シール・自費出版物
コンピュータ伝票・カレンダー・テレホンカード・包装紙類

特殊印刷 DTP Macintosh入出力/デザイン・出力用データ作成・電子組版(UNIX)入出力・企画・デザイン・トレース
コンピュータグラフィック・ロゴ・マーク製作

Intrenet 企業用インターネット構築・サポート・各種ネットワーク構築・企業用ホームページ作成・指導各種データベース

取引銀行 奈良信用金庫/本店
南都銀行/郡山東支店
住友銀行/郡山支店

敷地面積 445.5平方メートル

【会社沿革】

- 昭和43年 創業者 服部昭至により大和郡市において、PR美術印刷を設立
- 昭和44年 活版印刷機を3台に増設
- 昭和45年 活字と共に樹脂版(プラスチック活字)を取り入れる
- 昭和50年 全自動オフセット印刷機を導入
- 昭和52年 活版印刷からオフセット印刷化になる
オフセット印刷機2台導入
- 昭和53年 折込チラシなどを主に企業展開を計る
旧会社跡地に新社屋を建設完成
- 昭和57年 菊半親版全自動オフセット印刷機1台導入
(オフセット機:計4台)
- PR美術印刷株式会社として法人組織化する
全てのシステムをオフセット化する
- 昭和59年 菊半親版全自動オフセット印刷機2台導入
(オフセット機:計6台)
- 昭和63年 菊半親版全自動オフセット印刷機2台導入
(オフセット機:計8台)

- 電子組版システム(DTP)導入
デジタルシステム化に着手
- 平成元年 電子組版システム増設 (編集システム機:計3台)
- 平成2年 電子組版システム用のイメージセッター導入
印刷紙・フィルム出力可能
- 平成5年 電子組版システム新機種導入 (編集システム機:計5台)
Macintosh PowerMac カラーシステム導入
菊四親版全自動オフセット印刷機2台導入
- 平成7年 完全フルカラーデジタル(DTP)システム化に着手
- 平成8年 完全フルカラーデジタル(DTP)システム化を目指す
Macintoshを増設し、多数のニーズに対応を目指す
(Macintosh:計8台)
- 平成9年 Macintoshを増設し、多数のニーズに対応を目指す
(Macintosh:計8台)
- 平成10年 マルチメディア(インターネット・CD-ROM)の専門分野を強化
総合企画室開設にむけての準備
Macintoshを増設、機種変更

デジタルネットワークステーション

